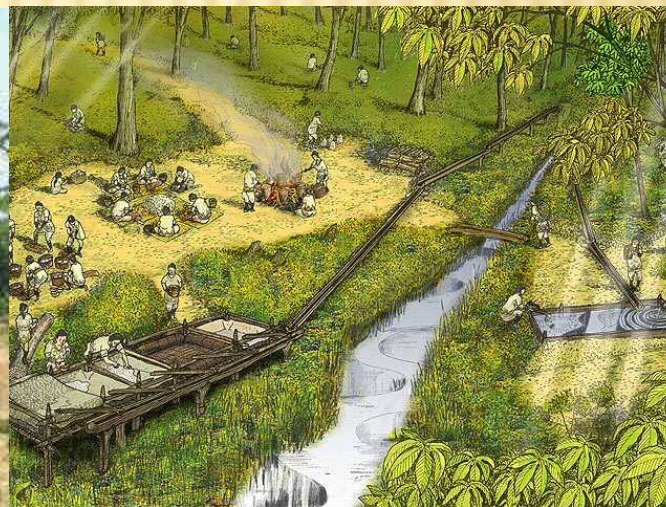


むかし・そしていま～水道の歴史～

大昔(おおむかし)の川口

- × 川口に人間が住み始めたのは、今から約2万年前といわれています。
- × 旧石器時代(きゅうせつきじだい)の東本郷台遺跡(ひがしほんごうだいいせき)や縄文時代(じょうもんじだい)の遺跡である猿貝(さるがい)・新郷・石神貝塚(いしがみかいづか)をはじめ多くの遺跡が残されています。
- × このころは、川の水や湧水(わきみず)を飲(の)んだり、利用していたと考えられています。



提供・掲載協力 川口市文化財センター(川口市教育委員会)

むかし・そしていま～水道の歴史～

今から約400年前(江戸時代(えどじだい))の川口

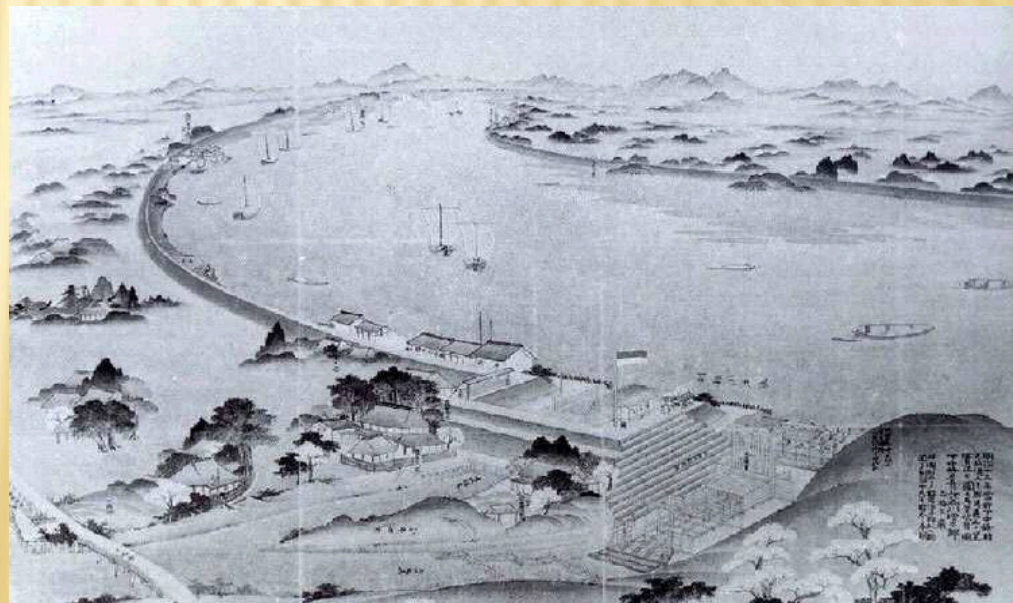
- × 江戸時代に入ると、ほとんどが幕府(ばくふ)が直接(ちよくせつ)治(おさ)める地域(ちいき)となりました。
- × このころ、見沼溜井(みぬまためい)や見沼代用水(みぬまだいようすい)、赤堀用水(あかほりようすい)などの灌漑※(かんがい)によって、農業(のうぎょう)がとてもさかんになります。
- × 川口の鋳物(いもの)づくりはこのころ始まり、農閑期※(のうかんき)の副業(ふくぎょう)としていました。
- × 川口は荒川と芝川が近くにあり、地下水が豊富(ほうふ)なため、わき水を中心に井戸水などを飲んでいました。

※「灌漑」

田畑のために川などから水をひいてくること。

※「農閑期」

農業が忙しくない時期。(10月～翌年5月ぐらいまでの時期)



むかし・そしていま～水道の歴史～

今から約140年前(明治時代(めいじじだい))の川口

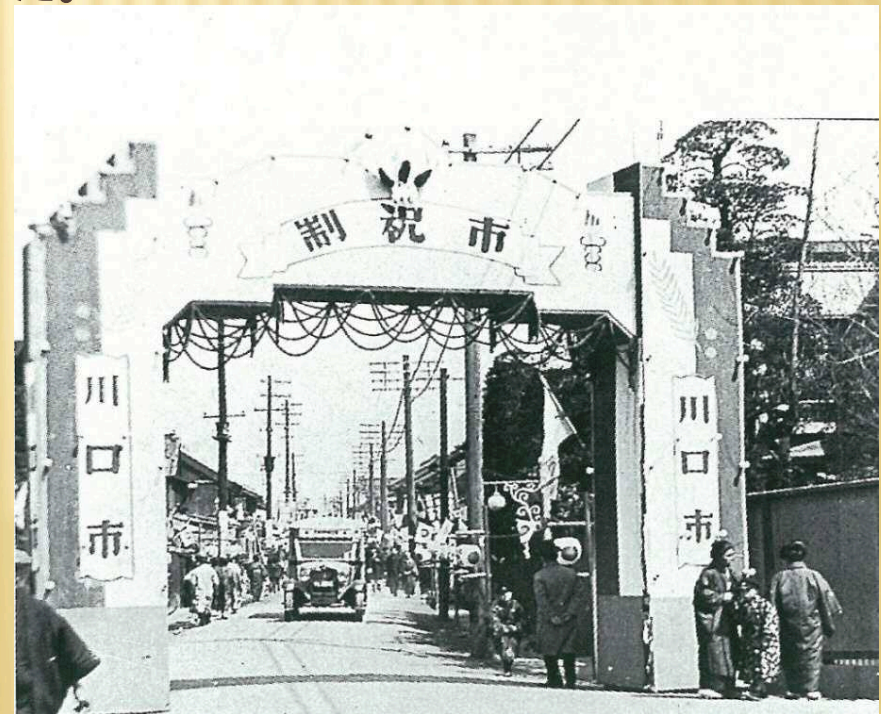
- ✕ このころの川口町は、今の本町1丁目と金山町を中心に300戸ほどの家が集まっただけの小さな町でした。現在賑(にぎ)やかな川口駅前や栄町・幸町付近は見わたす限りの田畑や湿地帯(しっちたい)でした。
- ✕ 明治末期(まつき)には鑄物工場(いものこうじょう)が150軒(けん)ほどになり、荒川や芝川を利用して、原料(げんりょう)や製品の運搬(うんぱん)が行われていました。
- ✕ このころも、わき水や井戸水が飲み水として使われていました。



むかし・そしていま～水道の歴史～

昭和時代の川口(昭和10年以前)

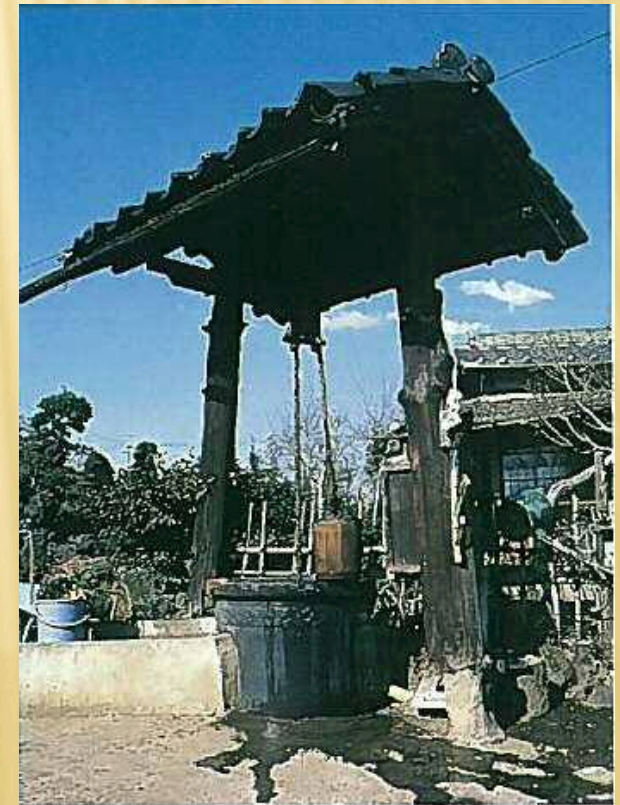
- ✕ 川口町駅・新荒川大橋(しんあらかわおおはし)ができると、川口は鋳物産業(いものさんぎょう)を中心にととても栄え、「鋳物の街川口」の名は全国に知られるようになりました。
- ✕ 昭和8年4月1日には、川口町・横曽根村(よこぞねむら)・南平柳村(みなみひらやなぎむら)・青木村の1町3村が一つになり「川口市」が誕生(たんじょう)しました。
- ✕ このころも、わき水や井戸水が飲み水として使われていました。
- ✕ しかし、人が増えたので使う水の量が増え、わき水や井戸水が枯(か)れてしまう場所もありました。
- ✕ その結果、衛生状態(えいせいじょうたい)が悪化して、井戸水が汚染され、伝染病(でんせんびょう)が発生してしまいます。
- ✕ また家が増え、火事も多く発生しましたが、火を消す水も足りない状況でした。



むかし・そしていま～水道の歴史～

昭和時代の川口（昭和20年代）

- ✕ このころ、**鋳物産業**（いものさんぎょう）がますます栄えます。
- ✕ 人もどんどん増えていき、使う水の量も増え続けています。
- ✕ わき水も枯れ、**伝染病**（でんせんびょう）の発生や井戸水の汚れも増えています。
- ✕ そこで、昭和24年に水道をつくることが決められました。
- ✕ 地下の深いところから、きれいで安全な井戸水を大量（たいりょう）に汲（く）みあげ、みんなの家や工場などに送る水道事業がスタートするのです。



むかし・そしていま～水道の歴史～

昭和時代の川口（水道事業スタート）

- ✦ 水道事業がスタートしてからは、水源第1号の深井戸を掘ることからはじまります。
- ✦ 人家が密集していて、将来人口が増える見込みのある上青木地区に浄水場を建設（けんせつ）することが決まりました。
- ✦ 建設中には、浄水場から家庭に水を送るための水道管の工事が着々（ちやくちやく）と進められました。
- ✦ そして、昭和27年4月に上青木浄水場が完成し、給水が開始されるのです。



むかし・そしていま～水道の歴史～

昭和時代の川口（水道事業スタート後）

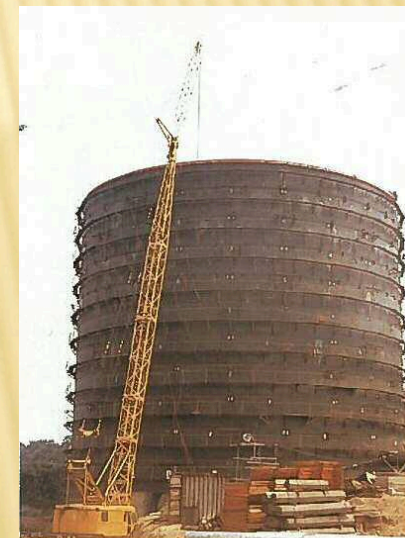
- ✕ 急激（きゅうげき）に人口が増えたことによって、地下から汲（く）み上げる水の量が大幅（おおはば）に増えました。
- ✕ それによって、夏には給水制限※（きゅうすいせいげん）をしたり、地盤沈下※（じばんちんか）の原因となっていました。
- ✕ そこで、昭和43年から地下から汲み上げる水の量を減らし、埼玉県から水を買うことにしました。
- ✕ その後も人口が増え続け、埼玉県の水をたくさん受け入れるために、次々に浄配水場（じょうはいすいじょう）が建設されました。

※「給水制限」

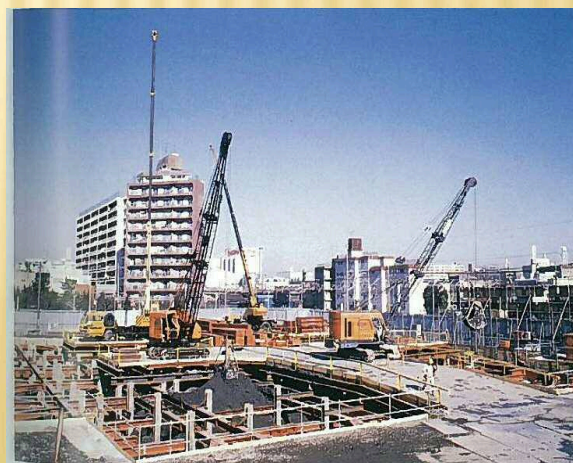
家庭や工場などで使える水の量を水道局が少なくしてしまうこと。

※「地盤沈下」

地下水が急に減ると、地面との間に隙間が出来て上からの力が加わり、地面が沈んでしまうこと。



神根浄水場円盤型受水池（昭和46年）



横曽根浄水場建設風景（平成元年）



石神配水場配水塔（昭和53年）

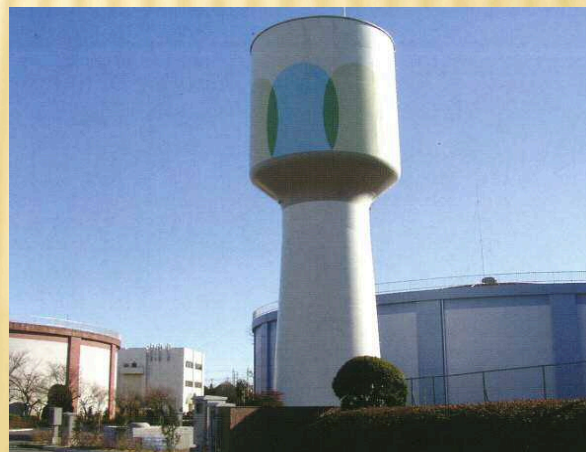
むかし・そしていま～水道の歴史～

現在の川口

- ✕ 今も、埼玉県から買った水や井戸水をきれいにして、市内にある8つの浄配水場(じょうはいすいじょう)から、みんなの家や学校に水を送っています。
- ✕ 市内に埋まっている水道管も、今では1,400kmを超えています。
- ✕ みんなに安心して水を使ってもらえるように、バイ菌(きん)が入らない仕組み(しくみ)で、いつでも安全な水を送り届けています。



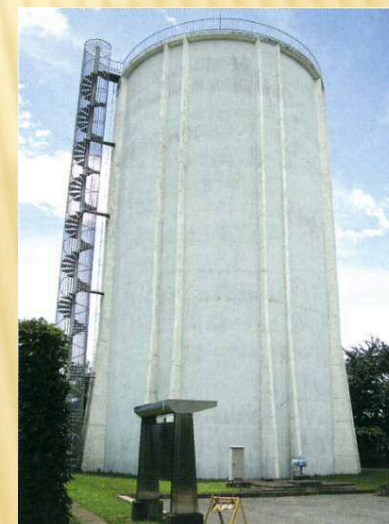
横曽根浄水場



石神配水場全景



上青木浄水場配水塔



新郷浄水場配水塔